

**令和2年度長岡市地方創生推進会議幹事会（書面会議）  
実施結果**

意見募集期間	令和2年8月19日（水）～9月4日（金）
幹事会委員	<p>長岡商工会議所 事務局次長 長谷川 和明  長岡地域商工会連合 事務局長 武士俣 利一  長岡公共職業安定所 所長 堀 進  長岡技術科学大学 総務部 総務課長 山田 毅  長岡工業高等専門学校 総務課長 大崎 博行  長岡造形大学 事務局長 久島 芳尚  長岡崇徳大学 学長 森 啓  長岡大学 事務局長 品川 十英  商工組合中央金庫 長岡支店 支店長 黒田 直洋  大光銀行 地域産業支援部長 小林 弘樹  第四銀行 執行役員 長岡営業部長 堀 岳彦  長岡信用金庫 営業推進部長 鈴木 和明  新潟縣信用組合 長岡支店 支店長 柚木 直人  日本政策金融公庫 長岡支店 支店長 横田 剛  北越銀行 ソリューション営業部 副部長 樺澤 正直  連合新潟中越地域協議会 副議長 横澤 勝之  事務局長 小林 守  新潟日報社 長岡支社長 八木 浩幸</p> <p style="text-align: right;">※敬称略、各分野・五十音順に掲載</p>
議題	<p>(1) 第1期長岡版総合戦略の効果検証について  (2) 地方創生関連の交付金等の効果検証について</p>
意見内容	
(1) 第1期長岡版総合戦略の効果検証について	
委員	<p>交流人口増加の取組みに関して、各地域や各施設での自助努力も大切ですが、今後の方向性欄に記載があるように、地域資源のストーリー性や広域的連携において、例えば、10年後の長岡市の姿の全体像を共通イメージとして持つことが大切だと思います。</p> <p>その全体像の共通認識の中で、各地域や各施設が担う役割や自助努力すべき事項がより明確になるのではないかと思います。その結果が成果として期待できます。</p>
委員	<p>東京など都市部への人口流入は、同時に地方の人口減少を引き起こしている。ただ、都会へのあこがれがあることも事実であるが、地方、ふるさと、故郷を愛する住民、若手は決して少なくない。本長岡市の「戦略」は、子育て、</p>

<p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p>	<p>教育、働き、交流、安心安全、連携という総花的項目について具体的な分析がなされている。この戦略は成果を分析、議論する事で正確に評価することは重要である。効果検証を更に進める事は、戦略への評価であるが、戦略評価が我々長岡市民の求めるものではない。地方創生を実感のある内実とするために、10～30歳代の若手重視の発想と施策は欠かせないことから、今後戦略検証とへ移行して、同時に若手の声を、そのまま反映するような「座」を追加することも、新しく、より有効な戦略に繋がる1つの手段であろうと考えている。</p> <p>私は長岡市は住みやすい町だと思いますし、生活サービスの行き届いた町だと思っていますが、この状態を続けて、更に防災、市民生活レベル（子育て環境等）等の向上を図るには、市政（市の収支等を含め）をより市民により理解してもらい、市民の声をもっと聴く機会（生の声）、市民にやってもらうことを説明する機会等を設ける必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>若年層流出の本当の理由は何か、何があれば（整備されていれば）長岡に残る選択をしたのか、それを何らかの方法で幅広く調査しなければ、施策も効果も上がらないと思います。</p> <p>原因をしっかりと探る取組を、常に力を入れて行うことも大事と考えます。</p> <p>評価の中で「若者の定住」目的が解決できるまでに至っていないと指摘されているように、若者を中心とした県外転出超過がやはり大きなテーマである。取り組んできた政策について、更に踏み込んだ総括、見直しの必要性を指摘したい。就職そして定住につながる産業や企業の魅力づくり、情報発信の視点が必要では。そのために、民間企業や団体と一体となった取り組みを期待したい。</p>
<p>（2）地方創生関連の交付金等の効果検証について</p>	
<p>委員</p>	<p>私は長岡市は住みやすい町だと思いますし、生活サービスの行き届いた町だと思っていますが、この状態を続けて、更に防災、市民生活レベル（子育て環境等）等の向上を図るには、市政（市の収支等を含め）をより市民により理解してもらい、市民の声をもっと聴く機会（生の声）、市民にやってもらうことを説明する機会等を設ける必要があるのではないのでしょうか。（再掲）</p>